

生物五坏古布、白瓜、黒瓜、白根、蕪、○中略 御湯津ク 蕪、居、中盤、和布、干

〔梵舜日記〕慶長二年六月廿一日、淨土寺百姓中へ樽廿五、盃粽廿五、白瓜十遣之、田地水爲禮也、

〔鹿苑日録〕慶長八年五月十三、自朝晴天、未明ニ赴尊勝院、以心西堂光駕、寺志州、同半左衛門尉、玄仍

永旬藏人、朝之會席、口汁糟糖ニ蔓草、白瓜、煎昆布○中略 俗客者本膳汁、同白瓜、同煎昆布ノ處ニ、シヲ

引二切、二ノ汁ニ笋ニ加鳥、

〔後水尾院當時年中行事五月略〕晦日○中略 御三間のたれたる簾上げ渡せば、御引直衣めさしまして

御座につかしめ給ひぬ○中略 先御盃、次に初獻白瓜、なを供す、御盃參りて女中に通る、次に二獻、南

瓜を供じて已後男をめさる、公卿はすのこの疊につく、殿上人は公卿の座の後に候す、次に藏人

瓜をもて出す、各一櫛をたぶ、公卿は座ながら、殿上人は座末にて、一人宛召出してたぶ、

〔毛吹草三〕山城 九條真桑 鳥羽瓜 大和 梵天瓜 攝津 木津瓜 和泉 舳松瓜

武藏 江戸葵瓜葵ノ御紋 有ト云 美濃 真桑瓜根本 有ト云

〔食物知新首〕日域諸國名産 果瓜 真桑瓜濃州 木津瓜攝州 梵天瓜和州 葵瓜武州 鳴子瓜同上 天野瓜越後

〔和漢三才圖會九、十〕甜瓜

按甜瓜出於濃州真桑村者良、故總名稱真桑、武州川越、尾州青鷺、洛之東寺爲上、駿州府中、羽州七浦、攝州氷野、泉州堺、舳松皆得名、參州銀甜瓜、白色而有銀筋、加州田中、和州梵田白色也、

〔雍州府志土六〕甜瓜 倭俗專賞之所々有之、然東寺邊其味爲勝、世稱東寺真桑、然其種每年用美濃

國真桑瓜之瓢核也、故元稱真桑瓜、至今略瓜字、直謂真桑、上賀茂邊所産、謂賀茂田瓜、其形肥大、然其

味劣、凡東寺邊爲映田、依近京師、不淨之穢水流委溝洫、故乎所作之瓜、土人自擇其良者、貼黑印於瓜

瓜產地

皮面而賣之、是謂判瓜、倭俗印稱、印判其風味不及擇之、倭俗於瓜十箇謂一頭、近世西郊川勝寺村谷